

Hara Museum of Contemporary Art

みんな、うちのコレクションです

2016年5月28日 [土] - 8月21日 [日] 原美術館 [東京・品川]



《今回の出品作品から》 [図版 1] 加藤泉「無題」 2008年 / 木、アクリル、オイル、石 / 185×167×110cm / 撮影 渡辺郁弘

原美術館では、2014年秋の「開館35周年記念 原美術館コレクション展」以来となる、全館を使った当館コレクション展示を行います。

【出品作家】

—現代美術、あります—

1979年の創立以来収集してきたコレクションは、国内外の多彩な現代アーティストの絵画・彫刻・写真・映像作品など、現在約1,000点にのぼります。その中から、横尾忠則、加藤泉、クリスト&ジャンヌ=クロード、ウィリアム・ケントリッジをはじめとする絵画・彫刻・ドローイング・映像作品を展示します。今回は、中国を代表するアーティストであると同時に、積極的な社会活動でも知られる艾未未(アイ ウェイウェイ)の貴重な初期作品や、日本から帰化してブラジル美術界の巨匠となり、昨年惜しくも亡くなったトミエ オオタケ(大竹富江)の絵画も展示する予定です。

【原美術館の特徴】

—うち(美術館)は、うち(家)でした—

当館は、もともと個人邸宅として1938年に建てられたもので、西洋モダニズム建築を取り入れ、中庭を包みこむように緩やかな円弧を描いた空間デザインが特徴的です。同年、東京国立博物館の現・本館がオープンしましたが(当時の名称は東京帝室博物館復興本館)、どちらも同じ渡辺仁(1887-1973)が設計しました。1930年代の欧風邸宅を美術館として再生した例としては、東京都庭園美術館と並ぶものです。《でっかい》美術館も素晴らしいですが、住まいとしてのボリュームと歳月を重ねてきた空間での美術鑑賞はまた一味違います。原美術館では、この空間と作品との対話を大切にした展示構成を心がけてきました。作品と同時に、美術を鑑賞体験する《場》そのものも味わっていただければと思います。

【空間を活かした常設作品群】

—《隅っこ》も、お見逃し無く—

邸宅であった頃は居間や寝室は企画ごとに展示を入れ替えるギャラリーに変わった一方、浴室や洗面所などのユーティリティスペースは、アーティストに依頼して《ちっちゃい》ながらもユニークな常設展示作品に生まれ変わっています。森村泰昌、奈良美智、宮島達男、須田悦弘、鈴木康広、ジャン=ピエール レイノー。見落としてしまうかもしれない《隅っこ》や《端っこ》に、建物と一体になったユニークな作品がさりげなく存在しています。開館日にはいつでもご覧になれますが、ここでしかご覧にならない作品です。さらに、建物の中だけでなく、敷地内の庭にも、野外の常設作品が点在しています。李禹煥、杉本博司、三島喜美代、アドリアナ ヴアレジョン、等々。

【会期中のイベント・ギャラリーガイド】

—イベント、やります—

原美術館では、増築した多目的ホールや中庭を利用して多彩なイベントも随時開催しています。本展の会期中にも下記のイベントを予定しています。

6月3日[金]、4日[土] 加藤訓子コンサート「ライヒ〜ペルトの世界」

8月13日[土]、14日[日] トヨタヒシ スライドショー(仮題)

—ギャラリーガイド、あります—

日曜日と祝日には、当館学芸員が展示解説を行います(2:30pm から約 30 分間)。予約は必要ありません。

【開催要項】

展示会名	みんな、うちのコレクションです 英題 <i>It's Our Permanent Collection!</i>
会期	2016年5月28日[土] - 8月21日[日] 開館日数:74日
会場	原美術館 東京都品川区北品川4-7-25 〒140-0001 Tel 03-3445-0651(代表) Fax 03-3473-0104(代表) E-mail info@haramuseum.or.jp ウェブサイト http://www.haramuseum.or.jp 携帯サイト http://mobile.haramuseum.or.jp ブログ http://www.art-it.asia/u/HaraMuseum Twitter http://twitter.com/haramuseum
主催	原美術館
開館時間	11:00 am - 5:00 pm(水曜は8:00 pmまで/入館は閉館時刻の30分前まで)
休館日	月曜日(祝日にあたる7月18日は開館)、7月19日
入館料	一般1,100円、大高生700円、小中生500円/原美術館メンバーは無料、学期中の土曜日は小中高生の入館無料/20名以上の団体は1人100円引
交通案内	JR「品川駅」高輪口より徒歩 15 分/タクシー5 分/都営バス「反 96」系統「御殿山」停留所下車、徒歩 3 分/京急線「北品川駅」より徒歩 8 分

【次回展示会予告】 篠山紀信展「快樂の館」2016年9月3日[土]-2017年1月9日[月・祝]

篠山紀信が原美術館で全て撮りおろす新作展。1938年に竣工された原邸宅を篠山紀信が現代の「快樂の館」に変貌させる。実在の空間と写真の中の空間が時空を越えて交錯し、恥美で幻惑的なデカダンな世界を創り出す。

【広報用図版】

ご希望の図版番号を下記、広報担当宛までお申し付けください。図版のトリミング、文字載せ等をご遠慮ください。素材技法、サイズ、撮影者不詳については省略可能です。※[図版 1]は 1 ページをご参照ください。



[図版 2]



[図版 3]

《今回の出品作品から》

[図版 2] 横尾忠則「DNF: 暗夜光路 眠れない街」2001 年／カンヴァスにアクリル絵具／182 x 227.5 cm

[図版 3] 艾未未(アイ ウェイウェイ)「毛像組 1」1985 年／カンヴァスにアクリル絵具／167.4 x 146.5 cm



[図版 4]



[図版 5]

《常設展示作品から》

[図版 4] 奈良美智「My Drawing Room」2004 年～／ミクストメディア／撮影 木奥恵三

[図版 5] 杉本博司「アートのほうき へえりな垣」2012 年／竹、その他／撮影および © Hiroshi Sugimoto Studio



[図版 6]



[図版 7]

《原美術館の建築》

[図版 6] 美術館外観: 玄関／撮影 渡邊修

[図版 7] 1938 年竣工当時の外観／撮影者不詳

取材・図版提供などのお問い合わせ先: 原美術館 広報 松浦、野田 (担当学芸員 安田) Tel 03-3280-0679
Fax 03-5791-7630 E-mail press@haramuseum.or.jp (いずれも広報直通/掲載時には代表番号・アドレスをお用ください)